

# 「学ぶ」とは何か？

総合政策学部長

おおはし  
**大橋**  
まさかず  
**正和**



英語では、高校までの教育を「エデュケーション」といい、大学以降の生涯教育を「ラーニング」と区別する。エデュケーションとラーニングの違いは何かというと自律的に学習できるかどうかの違いである。高校までは、教科書がありそれに従って勉強をし、ほとんどの問題に解答が存在する。

大学の教育がラーニングと呼ばれるのは、何を学ぶのか？、どの様に学ぶのかも含めて、学ぶ対象も、学ぶ方法も自律的に考えなくてはいけないということである。カリキュラムという大まかな指針はあるにせよ、問題を発見しそれをどの様に解決したらよいか等、学習する方法を身につけるとともに、新たに知識・知見を創造する方法を学ぶことにある。

しかし、従来の学問には体系がある。たとえば、数学という学問の体系を考えてみればよくわかる。順番

に積み重ねをしないと理解できない。1度理解できなくなるとそれから先はついていけなくなり数学嫌いを作り上げることになる。英語や国語も同じようですが、この体系を無視することは難しいのである。この部分は、エデュケーションである。ラーニングで大事な点は、エデュケーションとして個々の体系を学ぶばかりでなく学問に関する考え方やもの見方といった個別の事実からその原因や考え方を追求し普遍化された共通の原理や理論を見つけ出すことである。大学で学んだことの中で細かい事は忘れてしまうことはあってもこのような基本的考え方やラーニングの方法は忘れないものである。さらに、大学で学ぶと言うことは、授業ばかりでなく課外活動や授業期間外にも学び（ラーニング）の姿勢を忘れないでほしい。どうか諸君の大学生生活がエデュケーションではなくラーニングであることを願ってやまない。